



夏目漱石記念施設整備便り

ともに創ろう、漱石山房記念館

発行元
 新宿区
 文化観光課文化資源係
 〒160-8484 東京都新宿区
 歌舞伎町一丁目5番1号
 電話：(03)5273-4126
 FAX：(03)3209-1500

平成29年9月24日開館

夏目漱石が明治40年(1907)9月に早稲田南町の「漱石山房」に入居してから110年目の平成29年(2017)9月24日(日)、この地に新宿区立漱石山房記念館が開館します。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



▲記念館所蔵資料のうち、初版本の一部

- 所在地 新宿区早稲田南町7番地
- 開館時間 午前10時～午後6時
- 休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は、直後の休日でない日)、12月29日～1月3日
- 観覧料(通常展) 一般300円、小中学生100円
 ※団体(20人以上)は個人の観覧料の半額
- アクセス 東西線早稲田駅より 徒歩10分
 都営大江戸線牛込柳町駅より 徒歩15分
 都営バス(白61)
 牛込保健センター前より 徒歩2分
- 敷地内には、芭蕉・トクサ・桜など当時の植栽が再現され、四季を感じながらの散策が楽しめます。

■事業者、続々決定

新宿区立漱石山房記念館を魅力ある施設にするために欠かせない各事業者が決まりました。

◆指定管理者

新宿歴史博物館、林美美子記念館等、新宿区における文化歴史施設の運営実績がある公益財団法人新宿未来創造財団が、記念館の管理運営を担います。

◆ブックカフェ事業者

MONI合同会社が、ゆったりとした時間を過ごしながら本を閲覧し、漱石文学にふれるきっかけを提供できるブックカフェを運営します。

◆展示制作委託事業者

株式会社丹青社が、記念館の展示制作を受託しました。

■夏目漱石記念施設整備基金 継続のお知らせ

漱石山房記念館の整備に多くの方のお力添えをいただきたく、平成25年7月から開始した夏目漱石記念施設整備基金に、3月15日現在で1億222万5,000円(2,031件)の寄付が寄せられています。

なお、本基金は、資料の収集等に活用するため、記念館開館後も継続します。引き続き、温かいご支援ご協力をお願い致します。



建設状況

平成29年3月は、屋上のアスファルト防水工事、外装の建具・ガラス取り付け工事、収蔵庫の内装工事、エレベーター工事等が行われています。

3月下旬からは、山房再現組立て工事に着手しています。

※建設工事の進捗に伴い、漱石公園は平成29年3月6日から閉鎖しています。記念館オープンに合わせて再開園する予定です。



▲北面(漱石公園側)より撮影(平成29年3月)

コラム「ちよつと道草」 漱石山房再現の道

漱石山房記念館は、昭和20年(1945)5月25日の空襲で焼失した漱石山房の跡地に開館します。記念館の整備にあたっては、土地の記憶を継承する場としての役割を重視し、館内に漱石山房の一部を再現します。

平成24年度に設置した記念館整備検討会で記念館のあり方について検討を重ねていく中で、焦点になったのは漱石山房の再現方法でした。

漱石山房については、石崎等・中山繁信著『夏目漱石博物館 絵で読む漱石の明治』(彰国社)において、漱石の長男純の聞き取り調査に基づいた再現が試みられており、新宿区もこの成果をもとに山房の模型を製作し、新宿歴史博物館に展示しています。山房の内装に関しては、漱石自身の記述や絵画、次男伸六の随筆のほか、木曜会に入会した弟子たちも記述を残しています。しかし、これらの記述には食い違う部分も多く、書齋の広さも8畳と10畳の二説があり、はつきりしませんでした。

そこで新宿区は、検討会に先立つ平成23年度に、全国の大学や研究機関、博物館・文学館等に保存される漱石関係の資料や文献を調査し、実際にどの程度の再現が可能なのか検証しましたが、現在知られているもの以外に新たな資料を発見することはできませんでした。

山房は漱石没後の大正8年(1919)頃、鏡子夫人により改築され、書齋・客間・回廊だけは敷地の南東側に曳家して保存されました。その際、夫人の義弟の建築家鈴木禎次(1870~1941)が図面を記録したと伝えられますが、発見することはできませんでした。有力な資料となる写真についても、松岡護編『漱石寫真帖』(第一書房)掲載の



▲再現山房仮組立ての様子
監修者も交え、仕上げやエイジング処理について検討



▲回廊の再現 漆喰壁や床板のエイジング見本

写真以外に新たに発見することはできませんでした。

検討会では、以上の調査結果を踏まえて議論を重ね、未来に正しいものを継承していくという観点から、資料的裏付けのある書齋・客間・回廊を記念館内に再現することになりました。再現にあたっては、早稲田大学建築史研究室に委託し、県立神奈川近代文学館・東北大学附属図書館等の協力を得て、再現図を製作しました。

こうして検討が進められた再現山房は、美術製作会社の工場で作成が進められ、2月3日には仮組立てを行い、研究者の監修により再現精度や部材加工について検証と確認を行いました。3月には一度解体して記念館建設現場に搬送し、組立てとエイジング処理(古色仕上げ)を行います。

作家の書齋の再現は、これまでも数多く行われてきましたが、家屋の一部を再現する試みはあまり例を見ません。どのような漱石山房ができるのか、どうぞご期待下さい。

訂正 整備便り第4号のコラムで紹介した鏡子夫人宛て

書簡の日付に誤りがありました。正しくは明治35年3月です。お詫びして訂正いたします。